

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372700716
法人名	有限会社 チバコウ
事業所名	グループホーム美葉
所在地	岩手県一関市千厩町岩間38-4 (電話)0191(53)3533

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年9月3日	評価確定日	平成20年10月3日

## 【情報提供票より】(20年 8月 20日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8 人	

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.44 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立千厩病院、一関市国保千厩歯科診療所、遠藤医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

千厩町の街から南へ1.5キロほど離れた緑豊かで静かな山間地域に位置しており、近くには新興の住宅ができています。開設者は若かりし頃、ふとした福祉関係のボランティアをきっかけに福祉施設運営の心が芽生え、有限会社チバコウが平成16年に当施設を開設して運営している。理念は開所時に作成したものであり、1. 慣れ親しんだ生活様式。 2. 自然な形で力を発揮。 3. 人としての権利と尊厳。 4. 自信と感情が生まれる暮らしとケア。 5. 豊かな人間関係を保ち支え合う暮らし。以上をもとに千厩町唯一のグループホームとして地域に根ざしたホームを目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	馴染みながらの利用については、通所介護などの考えもあるが、帰宅時等に問題があり、目下のところ入所前の見学のみで解決されている。外出支援については、介護度が同程度の利用者だけなので、問題は無い。災害対策については、消防署等の協力で計画的に行っているが、地元の方々への呼びかけに、もう少し力を入れてもらいたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の内容をまとめ、推進会議などで助言を頂いたり、行政の職員に相談している。また、職員全員で自己評価に取り組み、前回の改善部分はスタッフ会議で検討し、結果を家族に報告するなど、改善の努力が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在、2ヵ月に一度、推進会議を行っており、ホームの活動内容や予定を報告しているが、それに対する質問、助言が殆どで、意見は多くない。また、家族の参加について消極的である。個人経営と法人経営の違いにギャップが生じている様子だが、気にしないで今後も自信を持って続けることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や電話、メールなどで状況を報告して生活の様子を知らせているが、現在のところ苦情や意見は殆ど無い。ホームの前進の為に多少の意見はあった方が良いのだが、できれば積極的にホームの方から声をかけてみることも必要である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	芋煮会や避難訓練などは、地域と合同で行っているが、近隣の住宅が少なく、日常の茶飲みなどの訪問は少ない。行事を通じて自治会や子供達をホームに招いて交流が図られているが、ホーム側から出向いての交流が少ないので、今後の働きかけに期待したい。なお、ホーム利用者の買い物、外食などは積極的に行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に作成された理念を現在も使用している。地域密着型を謳った理念の見直しは考えていない。グループホームの理念としては、思いやりが感じられて良い。	○	地域密着型も定着してきており、当ホームにおいても日々のケアに地域との関わりが見えている。理念の見直しによる効果も期待できるのではないかと。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	無駄な時間を少しでも削って、ケアに向けている姿は理解できる。日の浅い職員は、迷った時や困った時には助言を受け、理念から学ぶようにしている。	○	現在使用されているパンフレット、封筒等に市町村合併前の住所等が見受けられたので、訂正することが望ましい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭り、芋煮会には、地域の方々に広報(50部発行)でお知らせして、協力を頂き楽しんだ。近所の小学生が遊びに訪れ、入所者と触れ合っており、ほほえましい雰囲気ができている。		自治会、老人会には加入していないが、交流は行われている。代表の方々を運営推進会議のメンバーに加えて、ホームへの理解や協力を依頼することもひとつの案である。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、月に一回会議を行い理解を深めている。それによる改善項目は、家族にも知らせ改善に向けた努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム側からの報告が多いが、市職員より、市の方針等の説明があり、助言や相談に応じてもらっている。	○	混乱を避けるため、会議のメンバーに入所者の参加は求めておらず、また、家族からの参加が少ない。広報で引き続き参加を呼びかけてもらうことを期待したい。推進会議で多数集まってもらうことを遠慮がちに考えていたが、遠慮なく呼びかけることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政側から2人がメンバーとして参加してもらい、情報を頂いている。課題については持ち帰り、後日返事を頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所した時に、金銭の報告と健康面、生活面についての報告をしており、面会は週2回以上行っている方もいる。毎月発行する「ビバメール」でも様子を知らせている。時々友人が弁当を持って遊びに来ることもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回、家族アンケートを実施している。開設から今日まで1件だけ意見があったが、他には特に問題は無い。		ある程度の意見要望はあった方が、ホームの前進に繋がることもあるので、機会をみてホームの方から声がけしてみることが必要である。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はないが、本人の都合退職がある。昨年後半に利用者の入退居があり、職員も大変苦労したが、最近は落ち着いてきている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム(県、県南ブロック)の研修会参加は案内がある都度、出欠を決めている。ホーム内の学習会は職員が講師を務め、資料づくりから自分達の手で行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くにある他事業所と交流があり、情報交換をして入所に関しての便宜を図っている。交換研修も行い、成果を挙げている。		ホーム間で情報を共有し、入居希望者の待機を少なくすることは互いに安定した運営に繋がるので、今後に期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みから入居までの間、デイサービスで対応したいと考えていたが、実施には至らなかった。また、当該事業所を含む3箇所の施設の中から選択してもらい、決定されたというケースがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦前、戦後の頃の話題に対しても対応できる職員なので、会話がはずむ。家庭環境の複雑な入居者には、より想いをこめて接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より家庭の思いが優先されて、帰宅がままならない利用者もいる。10分位のドライブやその他様々な方法で臨機応変に対応し、本人の気持ちを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者に非常勤で来てもらい体制ができた。月一回のカンファレンスで意見を出し合い、本人、家族の希望に配慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し後は家族に説明している。退院してホームに戻ってきた時は、病院、家族の意見を優先させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理髪店への送迎、私的な買い物、通院の診察券出し等、職員が主として支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大半の家族がホームから近い病院を希望しており、内科は千厩病院、脳神経科はひかりクリニックを紹介している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	先日まで重度の方が2名いたが、いずれも退所された。ホームとしてはターミナルケアは考えておらず、今後の計画もない。		今後、緊急時を想定した重度化、ターミナルに関する学習を行い、職員の方針統一を図るのも必要なことだと思う。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー、羞恥心に関するマニュアルは作成されていないが、個々の学習によって、ケアの基本に沿って仕事をしている。		将来、新人スタッフなどが入った際には、個々の学習だけでは苦勞することにもなるので、機会をみて、マニュアル化することも必要だと思う。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事作り、配膳下膳、散歩等それぞれの日課と捉えている入所者が多く、職員からの軽い促しで、対応してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が普通食で、利用者の希望を取り入れたメニューが多く、主として肉、魚、大豆、野菜をもとに、スタッフの当番制により作られている。準備や配膳、片付けも各々手伝っている。		機会をみて、外部の資格保持者に声をかけ、何等かのアドバイスを頂くことも大事なことだと思う。運営推進会議などで、声かけをしてみたら如何か。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の目安は14:00から入浴可能としているが、希望によっては、15:00と16:00にも対応している。入浴可否判断マニュアルがあり、体調をみて近くの温泉にも出かける場合がある。		100%利用者の都合に合わせるのも難しいことなので、ある程度の時間の枠を決めて入浴させることは妥当だと思う。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の刻み方、ゴミ箱の内袋作り(新聞紙を折って毎日作る)ゴミ集め、モップがけ、畑仕事、花の世話、思いの過し方をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの車2台を使用して、ドライブなど、外出が容易に出来る。花見の現場を見た近所の方から「しだれ桜」の油絵を寄贈されており、あたたかい真心が感じられた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	PM8:00より、夜間の施錠をしており、出入り口にはチャイムをつけてある。また、ホール(食堂、リビング)の角につけたカーブミラーで、玄関付近の行動を常に把握できる様に工夫されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、春はホーム独自で実施し、秋は消防の指導を受けている。その都度、地域の方々に声をかけ合同で行っている。4日分の非常食を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表があり、1日あたり最低1000ccを摂取している。当該資格保持者がいないので、栄養バランスチェックを栄養士に指導を受けることが必要と感じる。		家族とは違い他人の集まりなのだから、時々チェックしてもらうことは必要だと思う。できれば公的な機関に依頼してみることも良いのではないかと思う。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はとても居心地が良く、適度な高さの小上がりは利用が多い。日めくり、草花、使い易いイス等、細やかな配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な居室がもたれており、位牌、家族写真の持ち込みもある。穏やかな日常を垣間見ることができた。		